

高知県技術士会近況報告

高知県技術士会代表幹事
右城 猛
(株)第一コンサルタンツ

1. 定例総会

5月28日17時より高知会館において平成21年度の定例総会を開催した。現時点での会員数は113名、総会への出席は43名であった。

右城代表幹事の挨拶に続いて、明坂事務局長より平成20年度事業報告と収支決算報告、岡田監事より監査報告があり満場一致で承認された。また、平成21年度事業計画、収支予算についても満場一致で可決された。



PPTを用いて平成20年度の事業報告をする明坂事務局長



上岡幹夫氏、中川洋史氏、川崎聡明氏、片岡寛志氏、吉岡恵氏の5名の新入会員による自己紹介

2. 特別講演会

総会の後、17時45分より四国建設弘済会理事長の福田昌史先生(工学博士 技術士)に、「建設技術者の本懐 - パラダイムシフトと社会基盤施設」と題する特別講演をしていただいた。福田先生は元国土交通省四国地方整備

局長で、現在は高知工科大学の客員教授もされている。

特別講演会への参加者は79名、このうち会員以外の一般技術者は32名であった。

21世紀にどのようなパラダイムシフトが起きるのか、これからの建設技術者には何が求められるのか、ご自身の経験に基づいて分かりやすく説明していただいた。

技術基準やマニュアルに書かれている既成概念に捉われることなく立案し、実施されたカゴマット工法、ポンプ付きゲート排水機場、柔構造樋管などの事例紹介は、大変参考になるものであった。



特別講演をされる福田昌史先生



福田先生の講演を熱心に聞き入る聴講者

3. 卒寿を祝う会

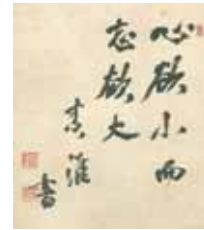
当会の前会長の村山保先生が90歳になられた。大変おめでたいので、特別講演の後「卒寿を祝う会」を開催した。参加者には「心小

欲而志欲大」と書かれた色紙を進呈させていただいた。先生が持っておられる元内閣総理大臣吉田茂の直筆色紙をお借りし、それから作ったレプリカである。先生は、37歳のときに、ご自身が設計された忠霊塔への文字を揮毫してもらうため、紹介状も持たずに大磯の吉田邸を訪問され、その際についてにと色紙に書いてもらったそうである。

このときの経験から、「無理と思っても、当たって砕ければ案外成功する。勇気を奮って向かっていくことが大事」と教えていただいた。五十年経った今でも毎日この色紙を見て、「心配りは細かく、志は大きく持つ」ことを心掛けておられるとのこと。



格調高い謝辞を述べられる村山保先生



吉田茂直筆の色紙(本物)



右城代表幹事による挨拶



乾杯の音頭を取る中村和弘幹事 司会役の橋口孝好幹事



祝辞を述べらる山本克彦副代表幹事(左)と田村嘉範会員



村山先生を囲んで歓談



最年少の吉岡恵会員より花束が贈呈された



森直樹幹事の音頭による万歳三唱で祝賀会を閉める